

(道徳)

「つながりあい認め合い 学び合う集団の育成」

～自尊感情を高め、よりよい人間関係を築ける道徳の時間の在り方～

大阪市立小路小学校 研究部

1 研究主題設定の理由

平成 30 年には、教科書を用いた特別な教科「道徳」の授業が全面実施される。また、「いじめ」の問題など「心の教育」の重要性がさげられるようになって久しい。本校においても、「心の教育」の重要性を感じ、道徳の時間の在り方について研究を進めることにした。

研究の推進にあたり、児童分析を行った結果、自尊感情が低いことがわかった。自尊感情を高めることが自分を大切に思う気持ちとなり、そのことが他者理解につながり、よりよい人間関係を築き、本校の教育目標である「つながりあい、認め合い、学び合う集団の育成」になると考えた。

そこで、道徳教育の要となる「道徳の時間」の充実が「心の教育」への第一歩であると考え、授業改善に取り組んだ。

2 研究の内容

(1) 研究のねらい

- 「道徳の時間」の授業改善を行うことにより、「心の教育」への意識を高め、つながりあい、認め合い、学び合う集団を育成する。
- 意見交流の場の設定の工夫により、道徳の時間の学習を通して、自尊感情を高め、よりよい人間関係を築く。

(2) 指導方法の工夫

昨年度より研究してきた「一読四分進法」を基礎としながら、読み物教材の世界に入り込み、道徳的価値観を高めていく工夫や道徳の時間の学習を通して、自尊感情を高め、よりよい人間関係を築くための工夫について以下の 4 点に取り組んだ。

- | | |
|----------|---|
| ①ICT の活用 | …ICT 機器を活用し、映像や音声等を効果的に提示し、読み物教材の世界に入り込める工夫
ICT 機器を活用し、児童が体験したことがない場面などについて、想像しやすくする工夫 |
| ②板書の工夫 | …心情の変化等を可視化し、中心発問において児童の思考を深める板書の工夫 |
| ③表現活動の工夫 | …話し合いの場の設定や、討議等を深めるためのワークシートの工夫
自分の意見に自信を持つとともに、お互いの意見を認め合う交流活動の工夫 |
| ④発問の吟味 | …フローチャートを用いた発問の吟味 |

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① ICT の活用について

- ・「映像や音声を容易に提示したり消したりできる。」という ICT 機器の特徴を生かして効果的な導入や終末を行うことができた。
- ・ICT 機器を活用し、映像・音声を効果的に提示することにより、疑似体験を行うことができ、読み物教材の世界にせまることができた。

② 板書の工夫について

- ・板書の工夫により展開が可視化され、中心発問に対してより深く考えることができた。
- ・イラストシートやペープサートを用いることにより動きのある板書を作り出したり、イラストの大小により窓口の心情を可視化したりすることによって思考を深めることができた。

③ 表現活動の工夫について

- ・工夫したワークシートを用いて考えをまとめることによって、自分の意見をまとめ、自信を持って発言することができた。
- ・ペア交流を複数回行うことにより、自分の考えを表現する機会が増えるとともに自分の考えを深め自信を持って全体交流の場で発言することができた。また、ペア交流により、考えの共有化ができ、全体交流を活性化できた。さらに、ペアで考えを共感し合い、認め合うことによって自尊感情を高めることができた。

④ 発問の工夫について

- ・フローチャート図を用いて、発問による児童の思考を予想しながら、補助発問や主発問の吟味を行うことにより、ねらいにせまる学習活動を展開することができた。

(2) 今後の課題

- ・効果的な板書や役割演技を行うための指導材のさらなる作成とともに、作った指導材やワークシートを今後の学習活動において使用しやすい管理の工夫
- ・校務支援パソコンを活用したデジタル教材の管理の工夫
- ・道徳の時間での表現活動を活性化させるために国語科や学級活動を中心に学校教育全体で表現活動を活性化させる。
- ・家庭や地域とともに道徳教育を進めるための取り組みの家庭・地域への可視化と情報発信
- ・道徳の時間を要とした道徳教育を進めるための別葉の吟味
- ・道徳の時間の学習だけでなく教育活動全体で、ペア交流などを活用しながら共感や認め合いの機会を増やし、自尊感情の向上を進める。